

平成 30 年度（2018 年度） 学校法人ゴスペル学園ゴスペル幼稚園 学校評価

〒901-0361 沖縄県糸満市糸満 1693-2

TEL 098-994-2145 FAX 098-994-2566

理事長 山内友子

作成日 平成 31 年 3 月 1 日

2013 年 3 月に宗教法人から学校法人に移行して 6 年。2019 年 4 月(次年度)からは子ども子育て新制度に私立幼稚園のまま移行する予定です。地域の幼児教育を担う教育施設として、本園の一層の教育の質向上を目的として、今年度も教職員による自己評価を実施するに至りました。この学校評価を踏まえつつ、本園の更なる教育活動と教育環境整備の充実、そして教育の資質向上に努めてまいります。

《 教育目標 》

『子どもたちひとりひとりが幼児期を精一杯生きることが出来る環境を』『聞くこと』・『考えること』・『伝えること』が幼児教育の中で特に大切な事であると捉え、以下の保育方針をもって保育に携わっていきたいと考えています。

《 保育方針 》

『良心を持って判断し、豊かな感受性を備える』

園児たちが体験を通して知識と教養を高め、豊かな心を培い健やかに自律の精神を養い、それぞれの個性を大切に捉える教育をします。

① キリスト教保育

神の愛を感じ、人を愛することを目標とした保育

キリスト教保育とは、神の前での良心教育をその生命線としており、このことを踏まえて「本当に大切なことは何か」を園児と共に考えていきます。園児一人ひとりに寄り添い、園児一人ひとりが神と人ともに愛されている存在であることを実感出来る幼稚園を目指します。

② 自由保育

自由で温かい家庭的な環境での保育

それぞれの個性を尊重し、伸び伸びと自己表現が出来るよう、日々の様々な活動を通して園児達の発達を支えます。集団生活の中でのルールを学びながら、大切な幼児期に大好きなお友達や先生達と沢山遊び込むことに重点を置いています。

③ 知識を経験として学ぶ保育

伝えること・考えること・善し悪しの判断が出来る

他者と関わることにより、他者を理解し、つながりを大切にする。自然に触れ、知ることで園児の創造力と感受性が高まることを目指します。

1. 平成 30 年度主要目標

- ① 全職員、本園の教育目標・保育方針の理解、実践、その目標の達成に努める。
- ② 教職員の質の向上を目指し、幼児教育に関する県内外の研修・講演会等に積極的に参加し、日々の園児との関わりや指導に役立てる。
- ③ 園児一人ひとりに対し、全教職員（クラス担任から事務員まで）が個々人の成長と子どもらしい育ちが確保されるよう、必要な情報の共有をこれまで以上に深め、各園児に最適な環境を提供できるようにし、当該園児の日々の課題に共に向き合う。
- ④ 食育の一環として、園庭や屋上で野菜や果物の栽培を行う。自身で育てた野菜や果物をみんなで調理、また食する過程と成長の喜びを感じ取る。
- ⑤ 安全対策として原則毎月1回、防犯・火災・地震等の訓練を実施する。年に2回は消防署と連携（訓練の事前通告を含む）して、緊急時を強く意識した訓練を行う。加えて、日々の散歩や登降園の際の安全確認を適宜見直し、園児の安全に十分な配慮がなされていることを職員間で共有する。

2. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目① 園の基本方針・保育の計画性

（達成） ゴスペル幼稚園全教職員が園の方針・各クラスやグループの保育内容・教育目標を把握できている。

（取組状況） 毎日行っている教職員による各クラス・グループの保育内容等の報告と確認、そして園児の活動や動きに対する意見交換を通し、日々のクラス運営に役立てている。クラス担任は日誌などを通して、毎日のクラスの状況、園児個人の課題を主任と園長に報告する。クラス補助との連携強化もさらに充実させる。

評価項目② 教師としての資質や能力・良識・適性

（達成） 全教諭が沖縄県私立幼稚園連合会（県内・県外）、キリスト教保育連盟（県内・県外）、ESEC 公開保育に積極的に参加した。

（取組状況） 各研修は事前に全教諭に伝えられ、園からも必要な研修への参加促進とシフトの配慮をしている。研修に参加したには教諭には、研修報告書（文章による概要説明と批評）を参加した研修から2週間以内に園長に提出させている。研修内容の報告を通して、参加出来なかった教諭にもその研修内容を理解させ、幼稚園教諭としての資質向上に努めている。

評価項目③ 保育の在り方、幼児への対応

(達成) 全園児の登園から降園までの様子を観察し、園児一人ひとりに合った声掛けや接し方を心掛けている。

(取組状況) 単に同年齢の園児の発達や成長を比べるのではなく、日常生活の中で園児一人ひとりの発達や成長過程を把握し、全教職員間でその発達段階とその時々の園児個々人の課題を共有することを全職員で意識している。必要に応じて、教職員ミーティングで個別の園児について繊細なアプローチが出来るよう心掛けた。特に、主任、担任との連携を強化して、園児の細かな身体的動きや情緒的な表現にも留意するようにしている。クラス運営を補助する教師にも特別に配慮が必要な園児に対するアプローチを意識させている。

評価項目④ 自然や地域社会とのかかわり

(達成) 食育の取り組みにおいては、園内施設において園児達が自ら工夫して野菜や果物の栽培を行うことが年間を通して出来た。園児達が近くにある社会福祉法人の老人ホームや県立高等学校などとの交流（老人介護施設のこいのぼり掲揚会、地域の高校生との交流会としてのハロウィンパーティ、植樹祭等）を行うことができた。

(取組状況) 自身で植えた野菜や果物の成長過程を園児達は探求心を持って観察し、毎朝の水やりや観察にも積極的に参加した。加えて、沖縄の伝統文化に関する行事は老人ホームの方々と交流をし、ハロウィン等の海外由来の行事は近くの県立高校の英語クラスへの参加を通して園児達の好奇心と探求心を深める努力をしている。

評価項目⑤ 幼稚園における安全対策

(達成) 安全対策としてほぼ毎月1回、防犯・火災・地震等の訓練を実施できた。年度内に2回の消防署と連携（訓練の事前通告を含む）を実施した。

(取組状況) 火災訓練では、出火元を訓練毎に変更する等工夫し、その時々に応じて避難場所も変更するなど、臨機応変の対応ができることに重点を置いている。教職員の園児達への放送や引率の方法を訓練後に協議する機会を設け、効果的な避難誘導ができてきているか、各自強く意識して万々に備えている。防犯訓練では、不審者対応・対策を教職員間で共有するようにし、園内の複数個所に設置されている防犯カメラを職員が随時確認する等、部外者の園内への出入りを必ず確認するよう心掛けている。

評価項目⑥ 保護者への対応

(達成) 毎月のお知らせ等（園ホームページ、園だより、一斉メール）で園生

活に必要な事柄を保護者に事前に知らせ、日々の活動や園行事を円滑に進めることができた。年間スケジュールやクラススケジュールは各教諭でダブルチェックし、事前周知の必要性や記載内容の妥当性に留意している。

(取組状況) 持ち物や行事の日時や集合場所といった基本なお知らせに加えて、行事毎にアンケートを実施して保護者からの意見を真摯に受け止め、常に当該行事の分析と今後の課題を協議する機会を設けている。子どもらしい活動が確保されながら、保護者からの視点も意識して幼稚園での改善点を常に吟味するよう努めている。